

## [5] 各クラスの実践

### (1) 1組の実践

#### ① 1組の実態

小学部1組は3名という少人数であり、その障害は、てんかん、ダウン症、染色体異常と多様である。発達段階は、2歳前半（自我の拡大期）から3歳前半（自我と自己主張の矛盾拡大期）の時期にある児童である。より大きい自分になりたくて努力や工夫をこらす反面、自信のなさから引込み思案になるK男、自分の気持ちを押しさえがちであったが、自己主張が強くなり、何でも自分でやり遂げたいS子、自分の意見を強く主張し、独り占めにしたり「もっと、もっと」と要求を拡大していくY子と、その発達段階から見られる個性も様々である。

繰り返し積み重ねてきた生活習慣に対する能力や言語理解能力は比較的高く、身の回りの始末は雑だがおおよそでき、教師の簡単な言語指示もほぼ全員が理解できる。また、他者に対する関心もあり、ともに関わりながら遊ぼうとする姿もみられる。しかし、生活経験が浅く、初めての場面ではどの児童も見通しがもちにくい。特に1年生のY子は、発達段階から、すぐに拒絶したり、学習場面での気持ちの切り替えに時間がかかったりするため、個別の教師の支援を要する。

#### ② 指導の方針

- ・子どもたちの興味や関心を重視し、子どもたちが喜んで意欲的に取り組める題材や教材を選定する。
- ・できるだけ子どもたちの思いに寄り添いながら、たっぷりとした時間の中で子どもと一緒に活動し、楽しさや充実感、成功感を共感し合う。

#### ③ 実践の中から

単元「いもほりしゅくはく」

題材「かいものをしよう」

本時目標

- ・自分が買う物を探し、買い物することを楽しむ。
- ・カードを見ながら物を探したり自分でお金を払ったりする。
- ・宿泊に使う材料を買うことで宿泊を楽しみに待つ気持ちを高める。

a この学習で大切にしたい教師の意図と支援（—— は教師の意図）

- ・買う物の見通しを立てやすくさせるために、実際の品物のパッケージをカードにした。
- ・自分で買い物をするという気持ちを持たせるために、家から自分の財布をもって来させた。
- ・店の雰囲気慣れさせ見通しを立てやすくさせるために、店の中をゆっくりと歩かせた。
- ・目的の品物が見えにくい場合は、見やすい位置に移動しておいた。
- ・自分で買えたという喜びや自信をもたせるために、各自が買った品物を見せ合いほめ合った。

b 買い物場面における教師の支援と子どもたちの活動

児童	教師の支援	活動の様子
Y子 (自我の拡大充実期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しを立てやすくし、買い物を楽しませるために、「お店の中をよく見てからね。」という声をかけた。</li> <li>目的の牛乳が高い所にあったため、Y子がお菓子の所にいる間にそっと下に移動しておいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐに目的の牛乳をみつけないにいていたが、声かけで店の物をよく見た。しかし、お菓子の所から動かなくなってしまった。</li> <li>一緒に歩いていたS子に飲み物の場所を教えてもらい、カードを見ながら同じ物を探し、同じ物を見つけると、「あった」とうれしそうに冷蔵庫から取り出した。</li> </ul>
S子 (自我と自己主張の矛盾拡大期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物を楽しませるために、ゆっくりと品物を見て歩くよう声をかけた。</li> <li>目的のお菓子は高いところにあった。「どこかなあ。」と言いながら視線を上に向けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店の品物をよく見て楽しむことができた。</li> <li>カードをよく見ながら探していたが、教師とともに視線を上に移すとすぐに見つけることができた。</li> </ul>
K男 (自我と自己主張の矛盾拡大期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多動で気が散りやすいので、「これは？」と声かけしながらゆっくりと落ち着いた雰囲気店内を歩くよう心がけた。</li> <li>目的の品物をすぐに見つけてしまうので、棚の上においてあり見つけにくい品物を選ばせていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのコーナーを注意深くながめ、品物についての会話もできた。</li> <li>店の中を何度も探し、あきらめかけていたところだったので見つけた喜びは大きかった。</li> </ul>

④ 実践に対する反省と課題

- 教師が個に応じた支援を工夫したことでその子なりに喜んで買い物学習に取り組み、自分で買えた喜びを味わった。
- 買い物が楽しい活動であるとともに、さらに家庭で生きた力となって身についていくためには、これを機会としてもっと家庭との連携を強めていかなければならない。
- 学習場面での気持ちの切り替えに対する声かけや支援はさらに工夫する必要がある。

(本城・山下)



先生、あったよ！